

料金後納
郵便

パリ展示会 特大号

HARIMA
NEWS



2025 Vol.23

社長からのご挨拶
パリ襖展のご報告

過去の記事は
こちらから

HARIMA
NEWS
WEB



襖とハリマ産業を知ってもらいたくて

ごあいさつ

平素よりハリマ産業をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

今年2月、弊社が所属する全国襖工業会はフランス・パリのパリ日本文化会館（Maison de la culture du Japon à Paris）にて、世界初の『襖展』を開催いたしました。この取り組みは歴史に残る「価値ある一步」であったと考えております。その一步を工業会の仲間たちと一緒に踏み出せたことを大変嬉しく思います。部材メーカー様をはじめ、ご協力を頂きました多くの関係者様に感謝申し上げます。本号はパリ一色の内容となりますが、世界への扉を開いた襖業界の物語にお付き合いください。

代表取締役 大久保 謙一



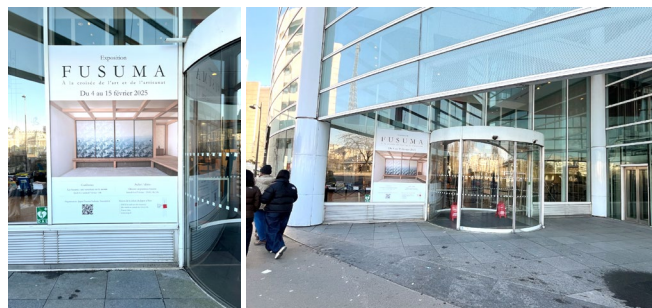
全国 襖 工業 会

パリ 襖 展 Fusuma ~ à la croisée de l'art et de l'artisanat

2025年2月、全国襖工業会はフランス・パリにて襖展「Fusuma ~ à la croisée de l'art et de l'artisanat（日本語名：襖 アートとクラフトの交差点）」を開催しました。本号では襖展のご報告と、展示期間中に同時開催した講演会とワークショップのご報告をさせていただきます。ぜひ最後までお楽しみください。

□ 開催の経緯

ハリマ産業では2021年の年末から海外展開プロジェクトをスタートしており、挑戦の地をフランス・パリに定めて活動してきました。その奮闘劇は前号までのニュースレターでご紹介させて頂きましたので、ご存知の方も多いかも知れません。2023年6月(第1回目の渡仏)、トイレを借りるついでの見学としてパリ日本文化会館を訪問したのが、本展示会に至るきっかけでした。



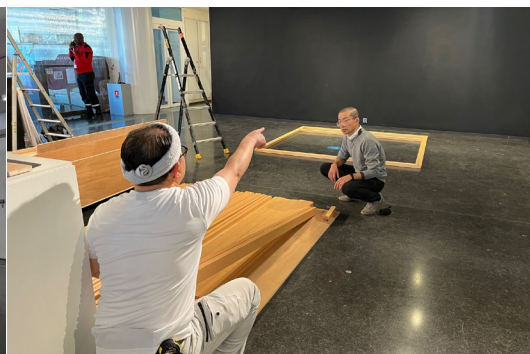
ちょうどその時期、パリ日本文化会館の地上階では「寅さん展」が開催されていました。装飾として置かれていた粗悪な障子を見て、「これが日本の建具だと思われた大変だ！」と感じた社長大久保は、同行して下さった中小機構のアドバイザーの協力を得て館の担当者に直談判。申込手続きの案内を頂くところまでなんとか漕ぎ着けたのでした。襖の未来を諦めないで決め、遥々フランスにまでやって来た大久保にとってはまさに千載一遇。逃せないチャンスでした。帰国後、パリ日本文化会館から申込書や案内書が送られてきました。そこで初めて主催者は公的団体である必要があると知り、瞬間的に全国襖工業会が頭に浮かびました。これは襖を世界に発信できる大チャンス。実現できるならハリマ産業の名義でなくても構わなかったのです。しかし、会の協力を得るのは容易ではないだろうと、このときは随分悩みました。会場であるパリ日本文化会館は公の施設であり、ここで販売活動はできません。見本市ではなく、あくまで文化交流を目的とした展示会・展覧会である必要があります。

商売にならないものに費用を投じることになるわけです。さらに問題なのはハリマ産業の立ち位置です。ハリマ産業の海外展開は周知されていたので、パリ展示会がハリマ産業にとって有益な取り組みであることは誰にでも想像がつきます。しかし、他の会社たちにとってはどうでしょうか？「襦の未来」というだけで賛同するほど甘い状況ではありません。徹底的に反対されることも覚悟しました。ハリマ産業の身勝手さを工業会はどのように見るのかが最大の懸念でした。

先行き不透明なか、展示会を開催するつもりになって改めて物事を整理してみると、ヒト・モノ・カネの全てが不足していることが徐々に明らかとなりました。正直に言うと、この頃のハリマ産業の社内は海外展開そのものに懐疑的でした。社長と社員1～2人だけの密かな事業になっており、憂鬱な季節だったと言えるでしょう。しかしどうしても諦めきれず、工業会より先に北九州市の濱田社長（株式会社ハマライン）に思い切って相談をしました。2023年11月のことです。濱田社長とは先代の頃からの付き合いです。お人柄だけでなく、技術や知識においてもパリ展示会の成功には不可欠な存在でした。最初は驚かれていましたが、「現地を一度見る必要がある」と、翌年1月の弊社2回目の渡仏に同行して独自に現地視察をして下さいました。この日から展示物の製作・梱包・輸送などあらゆる実務を担当・監督してくださり、運営に多大なご協力を頂くことになりました。展示会の目玉の1つとなった「組み立て式和室」は濱田社長の立案で、設計から施工まで一貫してハマライン社で行って頂きました。大変好評で、展示会を取り上げたメディアの中には襦ではなく、和室の写真をメインに掲げるところもありました。ハリマ産業では絶対に成し得ないことでした。ありがとうございました。



完成（パリ日本文化会館 / France Paris）



（株）ハマライン 中井 様、花井 様による組立（パリ日本文化会館 / France Paris）



2024年3月、品川で行われた全国襦工業会の会合にてパリ展示会の構想を公にさせて頂きました。工業会メンバーたちの反応は想像していたよりも明るく前向きなものでした。それぞれ思うところは沢山あったものと思いますが、全国襦工業会で展示会を開催することを快諾して頂きました。しかしこの後、少し怖くなりました。濱田社長はじめ、この時代まで生き残ってきた襦メーカー・部材メーカーは間違いなく強者です。パリの展示会で多くのヒントを得、彼らこそが世界に襦を売っていく可能性も大いにあるわけです。改めて工業会のメンバーは仲間でありライバルであることを思い知りました。同時に、この仲間たちとパリという世界一の町で襦展が出来ることを誇らしく思いました。千利休による改革以来、おそらく襦史としては400年ぶりの「一歩」であったと思っております。

本展示会では、襦の構成部材である縁、襦紙、芯材、引手のメーカー様方にも多大なご協力を頂くこととなりました。今迄も、そしてこれからも部材メーカーの協力なくして襦屋は成り立たないことを痛感いたしました。会場では来場者から実に様々な質問を受けましたが、知識が足りず適切な回答が出来ない場面が多々ありました。一から勉強し直しです。フランス人はそもそも日本文化に高い関心がありますが、それは決して表面的・ファッション的なものではなく、本質的な魅力を感じているからです。日本文化は余白文化といわれ、「間」や「空白」など「書かないこと」「説明しないこと」「最小限にすること」で受け手の精神の自由を許容します。ここ数年、欧州を中心に、静かな自己表現として日本のデザインを生活に取り入れたいとする風潮が広がっています。襦の活用を考え巡らせる彼らの表情は、襦屋としてとても嬉しいものでした。襦が外国で売れるのか？その答えは皆違って当たり前と思いますが、世界に襦を発信するという目的においてはフランス・パリほど最適な地はなかったと考えております。ご協力を頂きましたメーカー様、各機関の関係者の皆様、助成金支援を頂きました笹川財団様、そして全国襦工業会の各社に感謝申し上げます。ありがとうございました。

□ 襖展の成功

2025年2月4日、ついに「Fusuma ~ à la croisée de l'art et de l'artisanat (日本語名：襖 アートとクラフトの交差点)」が幕を開けました。全国襖工業会による海外初の襖展は結果として大成功となりました。文化会館の職員から日々もたらされる展示会に関するニュースは驚くべきものでした。ここで少しご紹介をさせていただきます。

AD Magazine 掲載

「2月のパリで見逃せない展覧会10選」に選出されました。AD Magazineとは、芸術、建築、装飾の専門雑誌です。イタリア版などもあり、本屋に行けばかならずある非常に有名な雑誌です。

Les Echos (レゼコ) 掲載

Les Echosとは、フランスで唯一印刷されるビジネスニュース紙で、日本でいえば日経新聞にあたるものです。会期の後半に入った頃に「最後のチャンス」といった形で紹介されました。開催前の掲載ではなかったので、展示内容に思った以上の反響があり急遽取り上げられたものと考えられます。

MCJP 来場者数

日付	人数
04/02/2025	597
05/02/2025	677
06/02/2025	674
07/02/2025	746
08/02/2025	1015
11/02/2025	918
12/02/2025	672
13/02/2025	656
14/02/2025	750
15/02/2025	1598
合計	8303

外務省 大臣政務官の来場



2025年2月12日、外務省の大臣政務官である松本尚氏が襖展を見学されました。2月10日～12日にパリで開催された「AIアクションサミット」のために渡仏されており、襖展の情報が入ったので急遽見学されることになりました。パリ日本文化会館の館長と濱田社長でご案内されました。大変嬉しいサプライズでした。

高市内閣 デジタル大臣
ご就任おめでとうございます！



□ 講演会「襖 世界への扉」

講演会は実物の襖とならぶ展示会の目玉として企画しました。想像以上に聴講者が集まり、大変な緊張感の中でのスタートでした。日本国内ではスポットライトが当たりにくい襖のディープな世界を紹介することが目的でしたが、日本人よりも日本に熱心な若者がいたり、もっと詳しくより専門的な話が聞きたいという感想を頂いたり、期待以上の成果を得られました。

また、同業者や部材メーカーの講演を聞くことで勉強にもなりました。こういう機会がもっとあれば良いのにと考えてしまいました。皆様、お疲れ様でした。



2025年2月4日 の勇者たち ※ 1/24時点の予約状況 115席 / 130席

溝渕 貴久（全国襖工業会 会長）：「襖展」開催のご挨拶と全国襖工業会の紹介 / 中井 英二：襖づくりと伝統工法について / 花井 準：展示品「和室」の製作と日本建築について / 大久保 謙一（全国襖工業会 副会長）：「襖展」開催への想いと期待



2025年2月7日 の勇者たち ※ 1/24時点の予約状況 92席 / 130席

山崎 聡一：表具師の仕事について / 久保 智裕：組子芯の製造工法 職人仕事と工業化について / 一楽 忠良：襖縁の製造工法 日本林業と襖 / 濱田 栄作：表装美術について 終わりの挨拶

□ ワークショップ「襖アートパネル」

ワークショップは2月8日と、展示会最終日の2月15日の2日間開催されました。1日に90分を3セッション、しかも満席(2日間合計で96人)という状況で大変ハードでしたが、講師陣は見事に成功させて下さいました。文化会館のアンケート調査によると、ほぼ全員が「大満足」と回答されていたようです。お疲れ様でした。



2025年2月8日の師匠たち（90分を3セッション） ※ 満席

山崎 聡一（有限会社山崎表具店 代表取締役） / 濱田 栄作（株式会社ハマライン 代表取締役） / 倉田 真一（伸和紙工株式会社 代表取締役）



2025年2月15日の師匠たち（90分を3セッション） ※ 満席

濱田 栄作（株式会社ハマライン 代表取締役） / 梶島 直人（株式会社ハマライン） / 田中 侑（株式会社ハマライン）

提供情報

襖の製作：株式会社ハマライン、谷元フスマ工飾株式会社 / 枠の製作：株式会社ハマライン / 芯材：株式会社久保木工 / 襖紙：株式会社東京松屋、株式会社丸二、株式会社菊池襖紙工場、国際産業株式会社、ルノン株式会社、株式会社太陽 / 縁：一楽木工株式会社、有限会社太田和創 / 引手：株式会社山友商店、株式会社ビドー / 組立和室：株式会社ハマライン / 襖模型：ハリマ産業株式会社 / 屏風・衝立・掛け軸：株式会社ハマライン（濱田節子 様） / 書：中島早苗 様 / ワークショップ材料：株式会社久保木工、伸和紙工株式会社、ハリマ産業株式会社



溝渕会長による記念撮影！
全国襖工業会 2025 Paris



2025年2月2日
設営日の前日夜のMTG。文化会館近くの飲食店にて、溝渕会長、大久保副会長、(株)ハマラインの中井様、花井様。思い出の晩餐会。

NEWS

2026年1月、フランス・パリで開催される世界最高峰のインテリア・デザインの見本市「メゾン・エ・オブジェ」に協力出展が決定！次号をお楽しみに！

